

このまちの自然、歴史、文化を伝える

針山たけし県政報告

発行者／自由民主党富山県議会議員会 針山たけし

vol.9

令和7年
2月発行

2024 5/31



高岡向陵高校の出前講にて
教壇に立つ

議員活動ダイジェスト

2024 7/26



第東京ドームの都市対抗野球にて
地元企業の応援

2024 8/18



伏木神社にて
「県議会サイクリング研究会」を代表し
「グッドライダーの集い」に参加

2024 9/28



能登半島で発生した
豪雨災害への支援

2024 11/24



ふれあい育成
スポーツ大会in伏木

2024 11/12~14



地方創生商工部会による
東北地方視察



用語集

P1 【有機フッ素化合物 (PFAS)】

※1 水や油をはじき、熱に強く、フライパンのコーティングや機械部品製造などに使用された。自然環境では分解されにくく、水などに蓄積する。発がん性が懸念されるなど人体への影響が指摘されている。令和6年9月に集計された全国的な水道水調査で目標値を超えた場所は無かったが監視体制づくりや対策が必要となっている。富山県でも水道水、県管理河川、地下水が調査された。

P2 【アンコンシャス・バイアス (Unconscious Bias)】

※2 自分自身では気づいていない「ものの見方やとらえ方の歪みや偏り」、「無意識の偏見や先入観、思い込み」と訳されている。
・家事や育児は女性がするものだ
・仕事で残業、出張、転勤は男性なら当然だ
など、特に性別による固定的な役割分担意識は女性活躍の阻害や若者の県外流出の社会問題の一因ともいわれる。

この言葉
どんな意味？

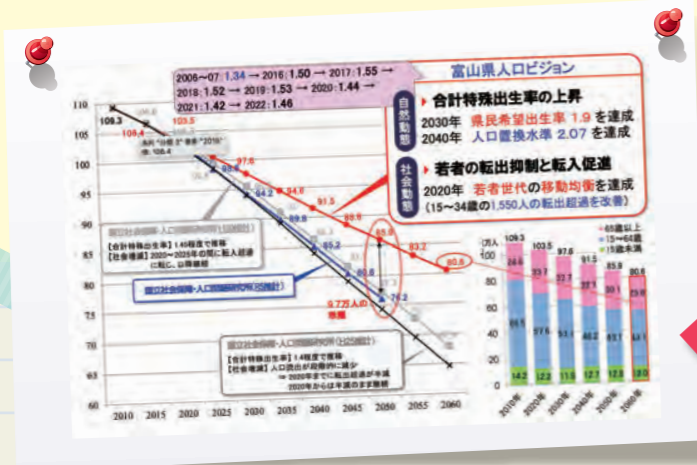


そうに
違いない

アンコンシャス・バイアス
(無意識の思い込み)

過去の経験・情報
知識・価値観

県人口の推移と未来へのビジョン
～2060年に総人口80.6万人をめざす～



委員長を務める地方創生産業委員会での質問

県議会 6月定例会 予算特別委員会

1. 能登半島地震の
対応について
2. 地方創生について

県議会 9月定例会 本会議 一般質問

1. 令和6年能登半島地震への
対応等について
2. 富山県の新たな
魅力づくりについて

ごあいさつ

2025年がスタートしました。昨年の元日に発生した能登半島地震は理不尽な出来事であり、至るところに爪痕はまだ残っています。それでも生活や生業の再建の実現のために立ち向かっていこう、乗り越えようと頑張っている人たちが大勢おられます。

一方で地域の先輩方が守ってこられた自然、歴史、文化を見直すきっかけにもなったと思っています。富山県の人口は100万人を割り込み、これから急速な人口減少が予想されていますが、わたしたちが住む・働く・学ぶ地域の素晴らしい財産をしっかりと次世代へ引き継ぐとともに地域の存在感を高めていかなければならないと考えています。

今年の干支は「乙巳(きのと・み)」。新たな挑戦へのエネルギーが高まる年といわれています。変化を恐れず、知恵と工夫を出し合って、心ひとつに力を合わせて震災からの復旧復興、地域の魅力の創出と発信に挑戦して参る所存です。

引き続き、皆様の変わらぬご支援、ご指導をお願いいたします。

富山県議会議員 針山 健史

最新情報はここから→

針山たけし

検索





令和6年6月25日(火) 県議会 6月定例会 予算特別委員会

1 能登半島地震の対応について

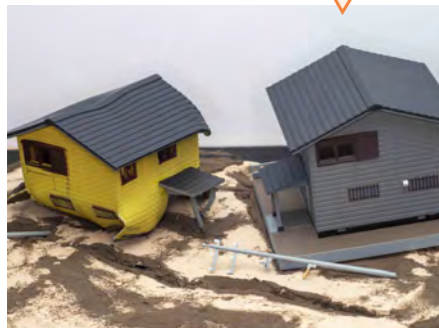
① 自宅再建利子助成事業のスケジュールや運用について問う。

答 弁(土木部長)

本県独自の取り組みとして液状化被害による準半壊、一部損壊も対象にして弾力的に運用。早急にコールセンターやウェブサイトを整備したい。支援対象を世帯収入600万円以下としているが要件が当てはまれば子育て世帯は無制限、障害者及び高齢者世帯では控除で対応したい。金融機関が被災者に対して融資することが前提であるため、趣旨をお知らせして協力をお願いする。



② 宅地液状化等復旧支援事業の対象基準について問う。



答 弁(土木部長)

一部損壊の対象について制度の詳細を詰めている。各市より被災住宅耐震改修支援事業の運用を参考に県内共通の基準で取り扱うべきとの意見があり、Q&Aを作成し基本的な事項を定める。

③ 有機フッ素化合物(PFAS)^{*1}の実態調査事業について問う。

答 弁(生活環境文化部長)

現在は製造や輸入が原則禁止されており、河川や地下水では暫定目標値500/Lを設定。国や地方自治体がR元～4年に実施した2,735地点のうち250地点で目標値の超過が確認されたが県内では問題はなかった。今年度は県管理河川32地点、地下水61地点で実施。河川は7～8月、地下水は12～1月に結果を発表予定。



2 地方創生について

④ 都知事選挙が告示、新しく任期を迎える東京都知事に求めるものはなにか問う。

答 弁(知事)

地方創生に取り組んできたものの、都市部の一部では人口増加がみられ、行政サービスの財源となる税収も東京都への集中が続く。自治体の財政力の差によって地方創生や子育て・教育施策に地域間格差が生じるのは望ましくなく、一極集中は正に取り組んでほしい。首都である東京が金融・商業のセンターとして世界の中でプレゼンスを高め、その果実を日本全体に波及させてほしい。



⑤ 富山県の副知事複数体制のなかで求められている役割をどのように考えているのか問う。

答 弁(佐藤副知事)

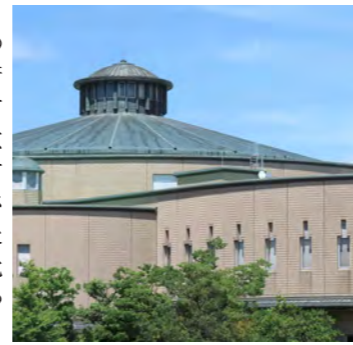
国やマスコミでの勤務経験があつて外からの面としての自分、県庁での長年の経験と実績のある蔵堀副知事と異なる背景を持つ副知事がバランスよく知事を補佐することで多様な県民ニーズに対応できる。また、農林水産省出身として一次産業の活性化や女性活躍の推進への貢献を期待されていると認識している。



⑥ 高岡テクノドームの機能拡充の検討について問う。

答 弁(商工労働部長)

2月から8月まで本館と別館の一体的整備の専門的かつ技術的な調査を実施することになっており、従前の予算規模等を考慮して本館と別館の機能について中間報告で3つのケースが示された。県西部6市や経済界等と相談しており、県西部の活性化に向けた取り組みに配慮しつつ具体的な整備の検討を進める。



令和6年9月12日(月) 県議会 9月定例会 本会議 一般質問

1 令和6年能登半島地震への対応等について

① 地震被害想定・津波シミュレーションの調査、地域防災計画の見直しについて問う。



答 弁(危機管理局长)

地震・津波調査検討ワーキンググループでの検討により調査を実施することとし、被害想定調査で先行している石川県と結果を共有し、連携した対策などを含めて地域防災計画の見直しに反映したい。

② 被災を受けている道路や歩道などの冬の除雪作業や安全対策にどのように取り組むのか問う。

答 弁(土木部長)

県管理道路の陥没や隆起は仮舗装で交通を確保したうえで復旧を進めている。除雪設備は震災直後に68か所の被害が確認されたが8月末までに57か所が復旧。降雪期前の点検や降雪時のパトロール、監視システム等を活用して散水状態やポンプの不具合等の把握に努め、異常があれば速やかに対応する。降雪期までの応急復旧を目指しているが県道中道国分線は配管から漏水する箇所があり、道路の陥没の恐れがあるため機械除雪で対応を調整。

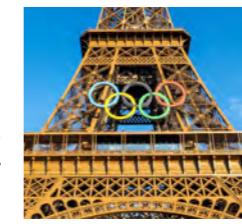


2 富山県の新たな魅力づくりについて

③ パリオリンピック・パラリンピックを本県のスポーツ振興にどのようにつなげていくのか問う

答 弁(生活環境文化部長)

先般のパリでのオリパラでは本県ゆかりの選手は11名が出場。トップアスリートの活躍は「第2期元気やまスポーツプラン」の目標の一つであり、各種の取り組みが効果を発揮し県民のスポーツへの関心が高まった。プランの他の目標達成にも活かしていきたい。



④ 公立の中高一貫校についてどのような役割や機能を期待して検討を進めるのか問う。

答 弁(知事)

課題を整理する必要があるが、本県になかった選択肢を提供するとともに高校入試の影響を受けない6年間の学習機会に様々な可能性に挑戦できるように特色ある教育の充実につなげたい。今後、県教委と市町村教委が連携して検討を進めることが大事。



⑤ 女性活躍の推進について

答 弁(知事政策局)

都道府県別の男女賃金格差が公表され、本県は女性の就業率や正社員割合は高く男性比の賃金水準も全国平均を上回るが、更なる格差縮小に取り組むためセミナー開催やコンサルタント派遣を実施している。

答 弁(佐藤副知事)

アンコンシャスバイアス^{*2}の解消、若者や女性から選ばれる職場づくり、仕事と家庭の両立支援など実効性のある施策に取り組む。また、7月に北陸三県の連携で「かがやき☆Hokuriku 女性活躍サミット」が開催され、共通の傾向や課題が話し合われた。



⑥ 県内の医療機関におけるオンライン診療の導入の状況について問う。

答 弁(厚生部長)

オンライン診療に必要な厚生局へ届出済の医療機関は令和6年9月現在で病院17、診療所71と増加傾向にある。タブレット端末やソフトウェアの整備支援を実施しており、さらに電子処方箋システムなどの導入の支援を実施し働きかけをすすめている。へき地医療や高齢者医療の確保、感染症流行時などにも柔軟な対応が可能だが、対面診療と比べて診療情報が限定されるなど見落とし防止、情報漏洩や改ざんに対するセキュリティ管理が重要。

